

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第2号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

令和7年産麦作情報（第2号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…小麦播種期の11月4半旬までは平年より高い気温で推移したが、11月5半旬以降は平年より低い気温で推移している。
- ◆降水量…11月2～5半旬までは降水量は少なく推移した。11月26～29に計40mm弱の纏まった降雨があったが、その後の降水量は低く推移している。
- ◆日照時間…11月～1月4半旬までの日照時間は平年より多照で推移している。

2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果（今後調査区の設置を予定）

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (L)	備考
鍋島	シロガネコムギ	11/24	124	10.1	241	3.4	・播種期は平年並み
北川副	さちかおり	11/24	160	9.7	353	4.1	・播種期は平年並み
川副	はるか二条	12/10	145	8.1	163	1.2	・播種期は平年並み

【概況】

- ・小麦の播種は、11月中～下旬を中心に行われ、現在第4葉～第5葉を迎えており、分けつ抽出も旺盛となっている。
- ・大麦の播種は、11月下旬から行われ、概ね年内に播種作業は終了した。11月下旬～12月初旬に播種された大麦は、現在、2葉期～3葉期を迎えているが、播種が遅れた圃場では、生育が緩慢である。
- ・カモによる食害が各地で散見され、特に大きな河川やクリーク付近の圃場で被害が大きい。
- ・11月上旬に播種（早播き）された小麦圃場では幼穂形成期を迎えている圃場も見られる。



写真1. さちかおり情報田の生育状況（北川副）



写真2. さちかおり情報田の生育状況（拡大）

参考 農試作況データ（1月20日調査）

◎農試作況試験における麦類の生育（1月20日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	12/3	8.4	436	4.4	[気象] 11月20日～1月19日まで ◆平均気温…0.3℃低い(当年7.6℃) ◆日照時間…長い(平年比107%) ◆降水量…少ない(平年比53%) [生育] ◆出芽期 「シロガネコムギ」は11/20播種で2日遅く、12/10播種で9日遅い。 大麦は、12/2播種で7～8日遅く、12/10播種で3～4日遅い。
		平年	12/1	14.6	437	4.6	
		平年比(差)	+2	58	100	-0.2	
	12/10	本年	1/4	6.4	151	2.0	
平年		12/26	9.6	173	2.5		
		平年比(差)	+9	67	87	-0.5	
サチホゴールドデン	12/2	本年	12/25	6.5	239	2.4	◆草丈 12/10「はるか二条」は平年並みだが、「シロガネコムギ」、「サチホゴールドデン」ともに平年より低い。特に11/20「シロガネコムギ」は近10年で2番目に低い(平年比58)。 ◆茎数 11/20「シロガネコムギ」は平年並みであるが、その他の品種・播種期では平年より10～30%程度少ない。 ◆葉齢 全品種・播種期で葉齢は少ない。特に、12/2「サチホゴールドデン」、「はるか二条」は平年より0.7～0.8L少ない。
		4か年平均	12/18	10.2	337	3.2	
		平年比(差)	+7	64	71	-0.8	
	12/10	本年	1/2	7.4	169	1.8	
平年		12/30	8.4	203	2.1		
		平年比(差)	+3	88	83	-0.3	
はるか二条	12/2	本年	12/25	7.6	236	2.3	◆葉齢 全品種・播種期で葉齢は少ない。特に、12/2「サチホゴールドデン」、「はるか二条」は平年より0.7～0.8L少ない。
		4か年平均	12/17	8.7	358	3.0	
		平年比(差)	+8	87	66	-0.7	
	12/10	本年	1/2	8.3	160	1.4	
7か年平均		12/29	8.4	228	1.9		
		平年比(差)	+4	99	70	-0.5	
留意点	◆追肥Ⅰは葉齢3～4葉期頃に行う。 ◆踏圧(ムギ踏み)は、3葉期以降に実施する。ただし、圃場の土壌水分が高い場合、土が締まり湿害を助長するため、必ず乾いた状態で行う。 ◆除草剤を散布していても雑草が散見される圃場では、早めに茎葉処理剤を施用する。なお、踏圧前後の除草剤散布は、葉害を生じることがあるので避けること。 ◆5葉期になったら、雑草防除と排水対策のために土入れを行う。						

注意事項

- 1) 「シロガネコムギ」：苗立数について11/20播種は120本/㎡、12/10播種は150本/㎡。施肥量は5.5-4.5-4.0。平年値は収量が過去7か年の内、収量が最高年と最低年の値を除いた5か年分の平均。
- 2) 「サチホゴールドデン」：苗立数は150本/㎡。施肥量は6.0-4.0-2.0。平年値について12/2播種は試験を開始したR3年産から4か年分の平均、12/10播種は収量が過去7か年の内、最高年次と最低年次の値を除いた5か年分の平均。
- 3) 「はるか二条」：苗立数は150本/㎡。施肥量は6.0-4.0-4.0。平年値について12/2播種は試験を開始したR3年産から4か年分の平均、12/10播種は試験を開始したH30年産以降の7か年の平均。

3. 今後の管理

1) 施肥

○追肥（本葉3～4葉期頃）

- ・追肥は生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・土壌が乾かず、散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1～2割程度増やす。
- ・追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。

○穂肥

- ・穂肥は、早く施用しすぎると茎葉が繁茂し、後半の肥切れにつながることから、施用時は極端に早めないほうが好ましい。
- ・11月中旬播種の小麦は、早くても2月中下旬頃から施用する。

※茎立期（右図の時期）を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

- 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

2) 麦踏み（3葉期以降）

- 麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。
- 土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し排水性が悪くなる。
- 圃場条件が良いときに3～4回程度実施する。
- 茎立期を迎えた圃場では、茎折れの発生による穂数の減少や株元のなびきにより倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。
- 麦踏みの最終時期は節間伸長開始期～茎立期（図1参照：節間長2cm・草丈25cm程度）前までである。

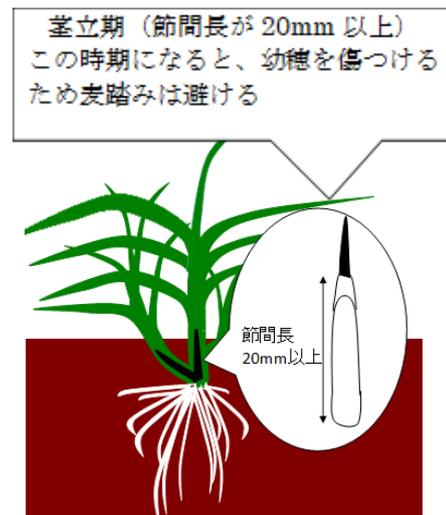


図1.茎立の模式図

【麦踏みの効果】

- ①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

3) 排水対策

- 排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 本年は、現在まで積算降水量は少ないものの、近年は局地的な降雨が増えていることから、今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
- トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

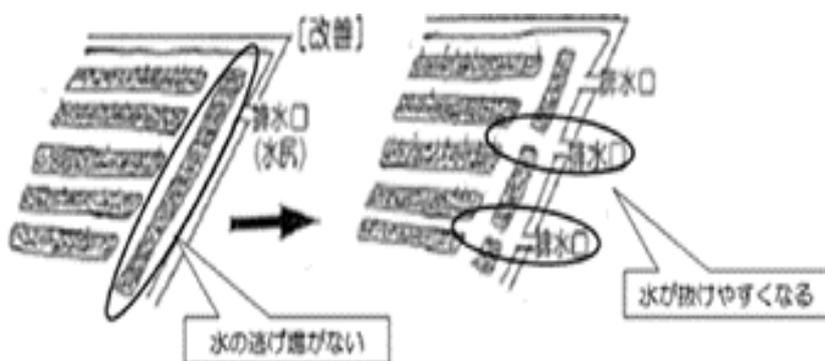


写真3.うね溝と排水口の整備例

4) 雑草対策

- 一部の圃場で1年生広葉雑草を中心に雑草（ヤエムグラ、キンポウゲ類、アメリカフウロ、ミチヤナギなど）の発生が目立っている。
現在使用できる生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸さないよう早めに対処する。（次ページ表参照）

【注意事項】

- 麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。
- 土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

○生育期除草愛使用例

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメテッポウ5葉期まで) (カズノコグサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・カズノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カスミアウへの効果は劣る
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	・ミチヤナギ、カスミアウ、ミノムシ等への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先圃場で使用
MCPソーダ塩※2	1年生・多年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	200～300g	70～100L	幼穂形成期 ただし収穫45日前まで	1回以内	イヌタデ、ミチヤナギ、ヤエムグラ等への効果は劣る

※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける

※2 MCPソーダ塩とハーモニー75DFとの除草効果が相殺され劣るため、混用には注意が必要。また、日中の気温が20℃以上の時により効果が発揮される。

5) 鳥獣害対策

○カモによる食害

- ・川沿い(嘉瀬川、筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害が散見される。
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

(症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。



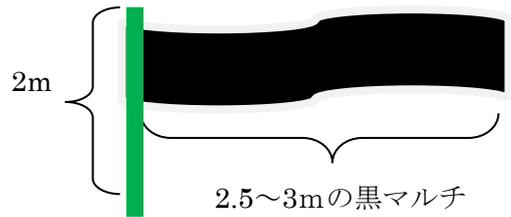
写真4.カモによる食害圃場



写真5.カモによる食害の様子(カモによる食害痕)

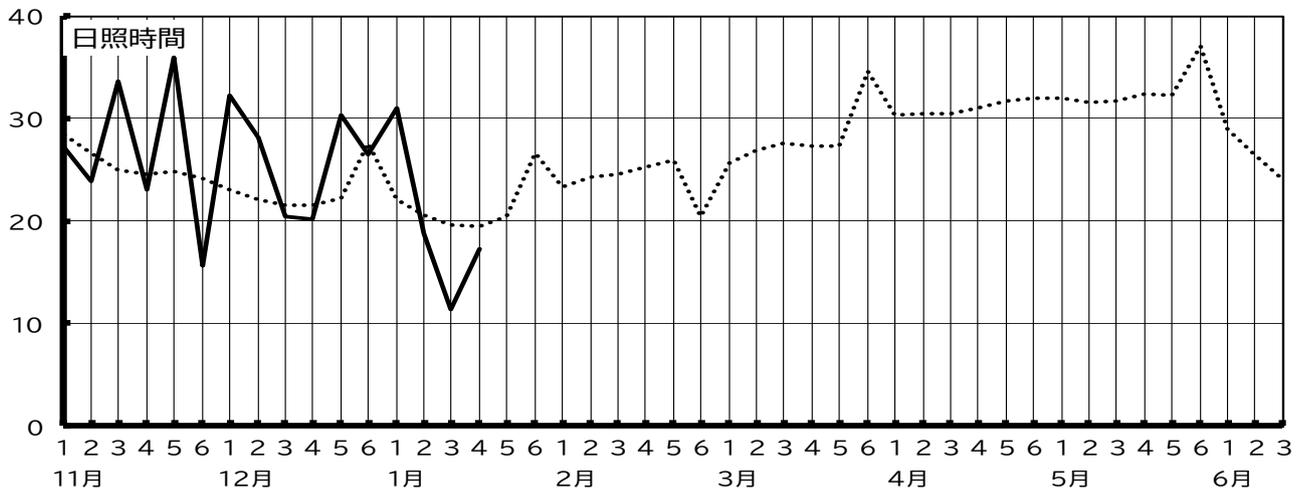
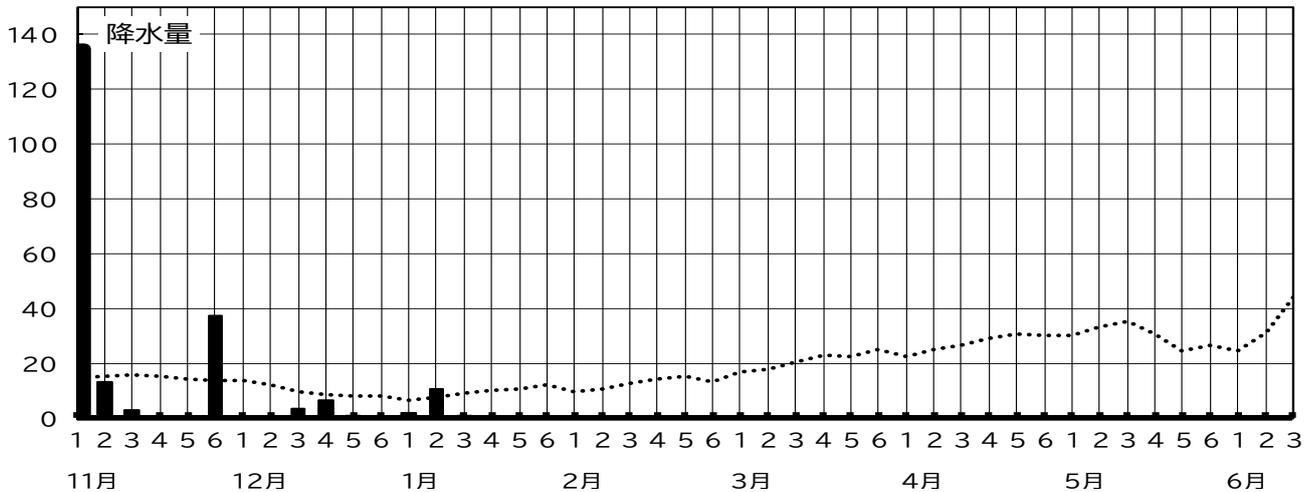
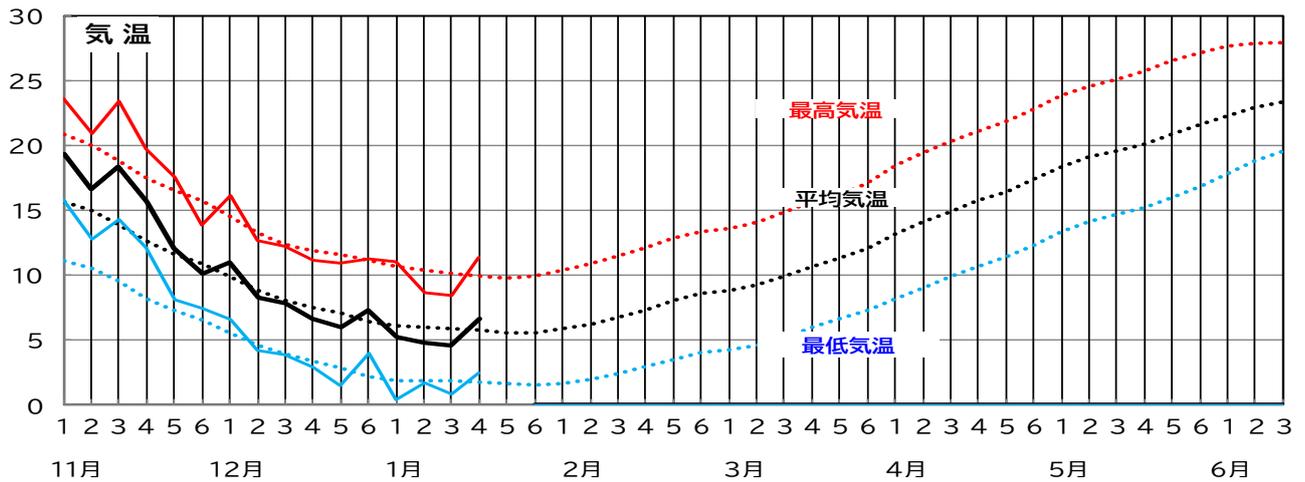
(対策)

- カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。
- 水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- 2.5～3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。
(費用は、「のぼり」1本あたり約420円)



令和7年産麦類生育期間気象グラフ
アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値